秋雨物語

三

208
9
695
特別

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

秋雨夜話

下

208
9
695

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

秋雨夜話　巻の三

第四回

清のやかく子作

さてもまくさ山左つへ夫婦がおたがひに著しとおそく
為ていしかりしかるに。是れ人のあらばくしと。彼の怪
婦あをきさ多り。こまとさとうの面をのぞけば。山左つ
が鼻毛を引出し　姻麿の毛
よりも尾の毛まで毛をむしりとりんとぞよくば

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

の秘術を尽しけるとぞ。さまざま強き山おろしも是ら為ゆゑ、ろくをぬく。是とて家内の菜も大方月々不切盗しと。月々一二度魚代買へどもろくの鍋を大ぶり有一ッはけ是を喰ふると。二ッ不切屋敷をおさへ動ぶ引くあり。「コレさんや今日の魚を味ろくさであろう。サア是を按め。おりのれさんとたくらくと又本月の今ところ。あまとより味ひ鍋代九ぐ一ッ喰せるぞと。のひ〜よ引き。買へ代ぶどもあまとぐまで

あ小蒲焼から豆腐焼まで通ひ。ぐとり酒も小買ぶ樽酒と。傍ぶ引き寄せ片肘も離さまのぞやかたる。ぞと。ひよく是程のかくらひ。ぶ強きも再ぶさくらひのとるをおせよ。あまきくるぞわとそよ〜ぜ。山おろしぶ強ぶ引き是一も「り〜」あまさんあの家敷を眼孤出〜そと寄ぶ。あとまりまたのませろ」「るぶ。ぞうぞるのの仕方ぶ引へ。あんあなのあまだぐ強きぶ代引へ。あとぞ。ぞあくろくるとのあぞうさるひきを「そやぶ

アわんわそのぐ[illegible]
あまたんわあごのミグあります。きのくあくん至の
まもろく 山「岩ともく」 ゆるりとのをく を「おやこれ」
いきろとごね。外のことでをるいあまたんも多つくあ
るたるるさ〜の兄さん八右ろつとのゆねそれ山「ム」そのよ
それがどく〜ことのくのごを「兄弟」のことをほろるもあり
ひが第弟ろくくるもまをぐれ。そのくそ〜「ろもとのくさ
ら級わ二ぶまるとるあうるろ性でそのろとのそ他ろゆの

[illegible]合ぐんぞのろうどやくわろ人ごぶ。あまでもようろ使
つくあ〜てあくんるまたのま〜る山「そりわアぬぐく。よ〜家
がはのろけ。そのみのみとるるらるろとよくさうのくあ。
家のきろわ〜あろ〜あまのまをめくの家の兄ろを「家の兄
でるろくそか。天ゆよこ地ゆもたろと猫の兄ごろるろうご
ぎのまさうる山「あごく〜」ところそくよびわろて必〜をアるの
ごこちろのくらちろとあ後極り。猫るく八右ろをよびよもを
けるぐのりとろ〜猫」をろるまをだ。かゆひ五〜ものろく。

まひの山ちうもあり。ものをきくうと怪び。家内のこも遠ふの式二人まぞまりぞるゆへ、あまりまーうと大ひの怪び。いーのく面の笑をはくーー年あまりも遠りけ。さまびまる式辺の作題節唐とのの山医師あり。藤治を付う内俗ちを俗ひ口を吹あるきく人のとり人ぬをあるく羽織多どこ何の事の巳形より美ひ常をかーーとの赤きせるりとは先まで笑飛ぶるよ。はりとる山ちうつぐ方へも赤ーーくなりてあり出入まるのどの今の赤内もこのばーーてはるくあるへのも

のとく節「イヤアーーのーーちうとうかーてはあげこの赤とうと玄家皇帝イヤ楊貴妃さあかりのをあーーてあぎのイヤモンそのあんだのの。ぎくうとひの法いてあんーーままの赤足あげてをでんるりめでもをぐのたまりやせん芸人ヤ節唐もをぐの赤のとの山「コ」あをきちうとおどりてものひぞくそをの王を清盛ちうの奥さるのーのあざと足をちをふのうくを「あをくるぞ山「それぞも楊貴妃の赤ひのあるを「楊貴妃

ガラス使用

とやらん清水さんの奥さんなるヨロしいまと屋土の妖さ
とありつさるまーくさよあ〜節「イヤ爲ぐてく〜そとのらがさ
らく千あでござのおたちる人をどがどかもを茶の柿人サ
るるんを参ぎ参ぎるをとあてびとのよとるーサ。ぞよ
もちろうんしんサ山「そよのそろーゆるらいのようるの
待ちつわヨーが参でさんさろ岩ひまを。砂紙のそ茶理
がヨらねが。まづヨーかは十四おろりもあとまでゆくで
もるひ参ぞ人であるさけまでも。人さあのかもりば

よまるくと出ならるゆを歩をろくが。まぐくらんるとで
ちをまさねを参ぐて節「イヤモシぞかーてくを野ひ
でぐろとのまぐく百万石ふもるくをとまをぐく山「そ
ーてマアきのてやされ。コーかのうちやを迎んを参で
ゆるふ出文あがりのみゆるぐかもあまくさあのそたちを
尼河経れゆるがはらひふようく。絵金の参の地
を持くく参まが。河尼田金のあろるを。山の奥でも
ちるゆるひとのひくさろくくく節「ぐかーてそりやサ居

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

う健康とありがたやよーわるのうてるもあろうぞござるッモシ
こりやァちっとたべさうけらまやせんと「ハイ」
さるべくはるまりほてさあるべくはるまりほて山何奈ちゃんぐちっと
お国ふかくまでこのとやて条ちゃんぐちっと
ハテるよーく会冥へ乗ってお今お国ふかくまでとのへ
中女「ハイ」山「コレく墨紙出せそーてそろちのたべとおん
へ出紙のれくのろく仕け元禄金の口入をもるものと尺の階
くけくまくゆくあとあはきと命の奈のきさーー白ひふるるそをりか
らあくり尺まのし節奈の尺りんつくろひたろくとあきがたべへ

大のぶり「コレナシおもきさん久ーひものとあがきんがお
まへをちっとコレそめくこ何出のべたろとを逃げ来物
脱苦波のそのくるーこ。小柴胡湯のこれわどもきてみ
ちっとるのおまへゆだ茗割を用ひてるりと。コレ」が色を
ちっとでも解て茗るくふくどのろくさまくみを尽ど。
そろるひゆきこのちりもせべ。大人参ろ用ひ稲どのぶせ上
そろるものをろふ又巴豆の遠ふとろ。あんまり形ぐん茗
コンナまとーがうりハ甘茗のあまいと紙かけさがよ

いと　るぞれうまとぞなまきてるまれむ〜まあんのむしまあ、
るをきーのべく節屋がるをところくひきのせ　「節屋さん
ままこーがやうるまんーさるひのわあまくきそうう〜をあ
あうるたたうれどをあろーゆるが十ヲ五一ツもまとうく
節「ハテサテ　あまくもうさがひぶうぷまとがるくてるんと
せうぞんく　を「のやきうでるのくぐかもまこーわうけとら
ね　節「エてそんるらが指でもホイとりやあまろ
さ坊ゑの髪が切らまねが。あまくゆるら落ぐも切
そんく　を「うまーひねくきうとうく。そんるらゑ紙

かくそんどのーさ縁から氏どうをあまくゆるをぞくゆ
まねのさ節「イヤアそんとあろーゆる。そまとこうたどや。
そんるをエをのんてまこーをだまーく笑ふ家うを「そんる
らうそまーとあくきと　節「とりやく
髪でをどざうねう、そんるのくゆるる有るであらうゆう
そのとうぐく。日どろ信ぎる茶碗さみの一ぢ縁月ゆやそ
あるぐるのまをんうらあまくのまを一ゑがどんぞゆるるく
でゆ紙おびこりそどを高茶りまを一金がまどやそう

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

も利益のあるものとあらばきっとくまを「まりく有馬
たくさん」と言葉のエとゞ第「そりやまるゝ伊を」を「アイ和
のようでもるのけ丸どもおろかの丸にもあの和仁ゞ又ゝ人
ゝらの又でゝくゝるゝね。そりやきとやはひくゝをあまの小ちゝと
おろのゝくのあたのゝ。ゞゝのゞきのゝたゝゞさるまの。第
「きろのゝゞるんと世うゞそゝのを「そんるゝちゝろゝとはい
一第何るゝと和んゞゝをゝをかるゝゞ伊ゝゝせまのゝとのゝた
ゝゝゝゝの制紙を第「そりやゆゝより易ひゝ。ゝゝゝゝるゝゝさ

上ゝゝゝたゝゝ拓ゝゝ文制第ゝゝゝゝゝを「それゞゝゞゝゝを
ゞまるね第「そゝのゝゝゝけるゝゝ百牧でもゝゝゝゝ
まゞひの小ゝ紙やゝゝ丸ゝゝ乳ゝゝゝれゞきゝゝゝゝ
ちゝひてゝるゝゝもいゝるゝゝゝあゝもゝゝゝゝ
第をゝるゝ和ゝのゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ綱のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ「第ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

るゝうて物知り 爺「さア それをも「サア 爺「サアく イヤサ
まづく も「まづくとゐるんのあのきつ。たゞをのられて
ふ引るくゐ浅ふ悪を引出そんよりのつそのエふと
情中よりうこそりをこるをいぞ〜浅ふ自害とうんくける
ゆく 部屋あるとてあ〜こでゐ「こりやく〜めつそよるこん
きうもそんきマアく まつこさを「いやく〜ぞふもえるね
ぞるゝねことけ。たを色」て殺して 爺「イヤサそんを屋をこん
るくらうたのまれさ今の一云 爺屋たゝ〜ふふ

紙ゝさマアくこんるあふるのあのこうちくゝ出ゝ子と刹刀なる
おくゝとゝをかくゝ「そのくをこくまでそふるうたをうき
ひてへからうけをどこを尾こうくどゐ多をこのも「ハテ 爺
ことをこうくでゐ雑禅らねモン 上形くと 和尚義 爺「へ、
りゝ上形くてりゝ上形くッそゝゝ河ふやアか会ゐ多論
家義までもも「おまけふ上色もあまくのりの「コりやるう
くるくもれくヨく。そんるうらよく毒茶「ヲコレサ色
孝ひうそのかねく 爺「御会アうく も「去あげてどん

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

ゐるとゆうことこうらひこうえもんる

○第五回

ふぎ　不義を強て業死を求るハ義子の幕中上ハ業成人勇
の答ハ濡ぶぐど「さまだ」。
とろあのつ。あもきぐん屋ひ屋だ一てびをそらあそろ「く
又一てびハ欲ハ逢ひまのハせんと志ぼ「ぐ和どるを又て路
絶と思まふくれくわ「り」が。ありひるわ一て猫を「アのく
あのやうあもきめぐぬ生ぐる屋で泡沫ばうませるよふハのの

でも毒害ぐ尾よの物ぐだ方多アゥ。サア手あるり又
一ッ中をとるうこを財ハ人をのろぐ穴二ッと尾の張ハ
もいふものをあぐるの毒あるうこり。ハひきるぐまー
であらふクアイやあろー「ハ」ひのどやと猫ごち「て居る
又門口ゆて濡ぬうん「たのこませうとのの方ぐ出
だ彩ろう節「だくくだれどや。ハの物ぐらの筆とり
じゃとひさまろ「ア出きるハ山をつきるるのあひと
ハをうどのやナハ「ハイさやうでござりまを。あるるハまア

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

今ごろん燈も消るさらぶふまくら雪ふ仏をるまろて

節「イヤサちと外無つて用向がござろて とあるを かきくまづ志し

仏ふーろ外燈を付やせうマアとろちくあぐんるせ。志し

仏の四月ぐござりまるチハ「さやうふござりまま。仏ろを

ろんじませぬが先ちどを人石仕のあまきがあるさふあ系

を別ひまーくとクチエでござりほとさが。夜中とチエごろ

面仏るぐらぷくごひくまろてくれるようふとたのまま

まるとゆ人ちほてござりまとる家雑ものは紙の四まある

とチほてさ系仮山ろんこされませと。ぶようみくうけ

とス。節唐日ろ系ーひゆしひとを人より送ぐくその

ろぐきのあとるろとみくりんさの一ッナのふ先人仏の

通ひ系前ろ きろてさるぐ仏。ろくくるるも外燈のか

げふかくて八ろつふさとら色ほと流ろの文ろかぶれ

あざめきろく

ろんしてさようのどろナとびろぐさんゆくまろくく

ぶのふーくかくーくん人ゆせーるゆよりやるまれも

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

しゐ節屠げ仲匙かげん潤合の業ふそゐるあるの五
第ふあきめてそ赤らね敷節「ほりくさそ赤ゐるであ
くらうサリくふをあ指るされ。ピてほ第の内ふ山業刑ひ
ぬうう赤ゐてごぎるふようてようくそふやしてひされ八「へくく
ピと畏まりほて。赤白」大ふれ面修さるでごぎりほて第「イヤサ
ほ方ハ見グ商裏ふ使ふこさるピそれを義でごぎります。サ
アくふくあ伐りるまうく。お体ゐるさい。見形くの臣
うとまるまくそのて伐り毛ゐる八赤ゐつグ見ゐるを使ひりゐろ

と板見ふ赤ゐひあゐる稼ふてのにあまきあうゐ八見ほ
てを「ゐしくごピとく八「のグ五上めびチを「ヨさうゐ
うれひのぷごれくゐろちくよピてれせる八「めくさるふ八業
わくグのひぜを「よさ五和ごよあんどるをんるぷおるせへへ
わくヨるハ「そしてるんどゐ赤ゐわくグべらぎうふくかゐて
へんごゐういてようくごぜを「さうゐのくだゐごのう大業ひぜ
ごんるピ五くきあゐさゐひゐろ五をやらう八「ヨそんるピ五
してゐくひうと人ふめうゐると赤んごよをく。そしを

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

よく宿ろくが儀へいつてあるのれ可きぐろてあるがらくまを「そ
るんぐさとろれへよと八左つぐ脊八「多徒ど中ねくれ中くゆけ
ま「志ぐ」ぞんるゆ志ちゆとこんや一晩ざうあいそのふそぐのう
てからうよのよと。あまとさいろくく八左ろいこせつろれてこそへ
付ふる。表もおあるる陸の夢徒り亟光のなまあり。沙羅
双樹のるるの亟光者必奉の理ふ山左つが本書のあろが
うくぞうくぞける徒よ時るろくくまでも。ぱろ実連ぱと教へ「志」左ぬ
が中もぱぱいあまとさふ色沈奉まとてまさるのもるさふむる山左つ

が国ぞりを遠ざけらまとく髭恭るくも彼戸ふ芝るる
ひとろね猫ふ藤の枯ふ左まる海を挿ることくるやりまと亟光。芝ひ
つげくあ所の行徒の中ふをひつ者「そどとへ猫の猫り
ぐさ。けーて表へ先ぐまぐと芝つろわど尚「る」さへ猫りゆく
猫るぐであろ「ひとり亟「アるんふろくまのぐとあさらもとも
ぐふも猫も猫亟表。ぐぐ勇るぐらも見ろ猫ら上我とぐん
を「のま」めとりるを「を」てもあんまりきとえね山左つどの仕
さ方。きのくやろへ法亟添さ女房ぐへあるまの「奥」人間ろら

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

二人ゝてうき紙雛の姿かなぎさ波に浮ぶ紙舟にて漕ぐ〳〵島紙はく世うふるろくさもえんあの人ふ内紙でゆくゝ家をろくゝ三百あの れふ紙。そまうゝ世うくとりつひて。はくらるふもるくさるり。あのあまきふたらされくとの紙と月一度でも三番紙ゆくゝ世ようふ。たうき月紙させるとふ。あんまりもとひ紙をゝと夜ふふ月をよせうきくとき紙待もるく泣まづめば。夜もまうくとのりね。家内の男ふもる起て揚みの

方うをカチくとゆをおるのきくゝまゝ奥の方ゆを山ちうつぐ夜と山「コレあまきりつるのこるくふたりおく起さる毎れるつぐ居ともれれをまるぐぬでをるつ。たまくそのまに れ起まると月でもひくとゆるゆをつくまつとあのまき弱れくまれ「イヨ〳〵」をおゝたりまるつぐあて山「月ゆがあぐ紙ゆうさまとふどもふのひ付くゆのとさせるぐくふの。まともあのらふ出ふれるるゆ。ふ月ふ拾あつるふ山の邪めをたきあとてさせうく。夫

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

「こも毎〻(ごと)に新るるゆりあれも猶ぐ祝ぎ[illegible]
と歌ひて新してくれイヤどうこいをとりけどもとりわ新
のそ激色あるも二人して中わ新る金盥あるもらさね
中くおろかを渡りと祝るる。ちら葵あるとるでたけ
る松もあるとうもたるぶ山「コウ毎〻とあきとちはる
たくぶも家が遠ふ。あもも大ぬ百とはくこ祝モウ五十
年あるァよりわどたくれ。これくたいごとまもあの
だりをかぎうく。可きぐくあくく昌ろ。ろんのろくぶあ

まるぶあるを[illegible]て昌るうまぶあるうと「きまとこサ家」てうの
山「可きをあくぶすア怨るうよサアとのとををりのうのたちくとを
こゆくやあぶ拍るる家の初尾中分こ在でゆるみあまきる家
もんて家ろんをミッとちひくある[illegible]
あまきを伊ゆくんろぶきたるあまて猶ゆの方〻[illegible]
ぶ祝てるぶうくおのぶる猶も一つふり猶をうのごとちえ
てき「サアのくに拍おあぶんるたの[illegible]二人まくのをくを
「イヤ試番を拍くるる「ゆやさあうくくり祝てあげのくとあ女

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

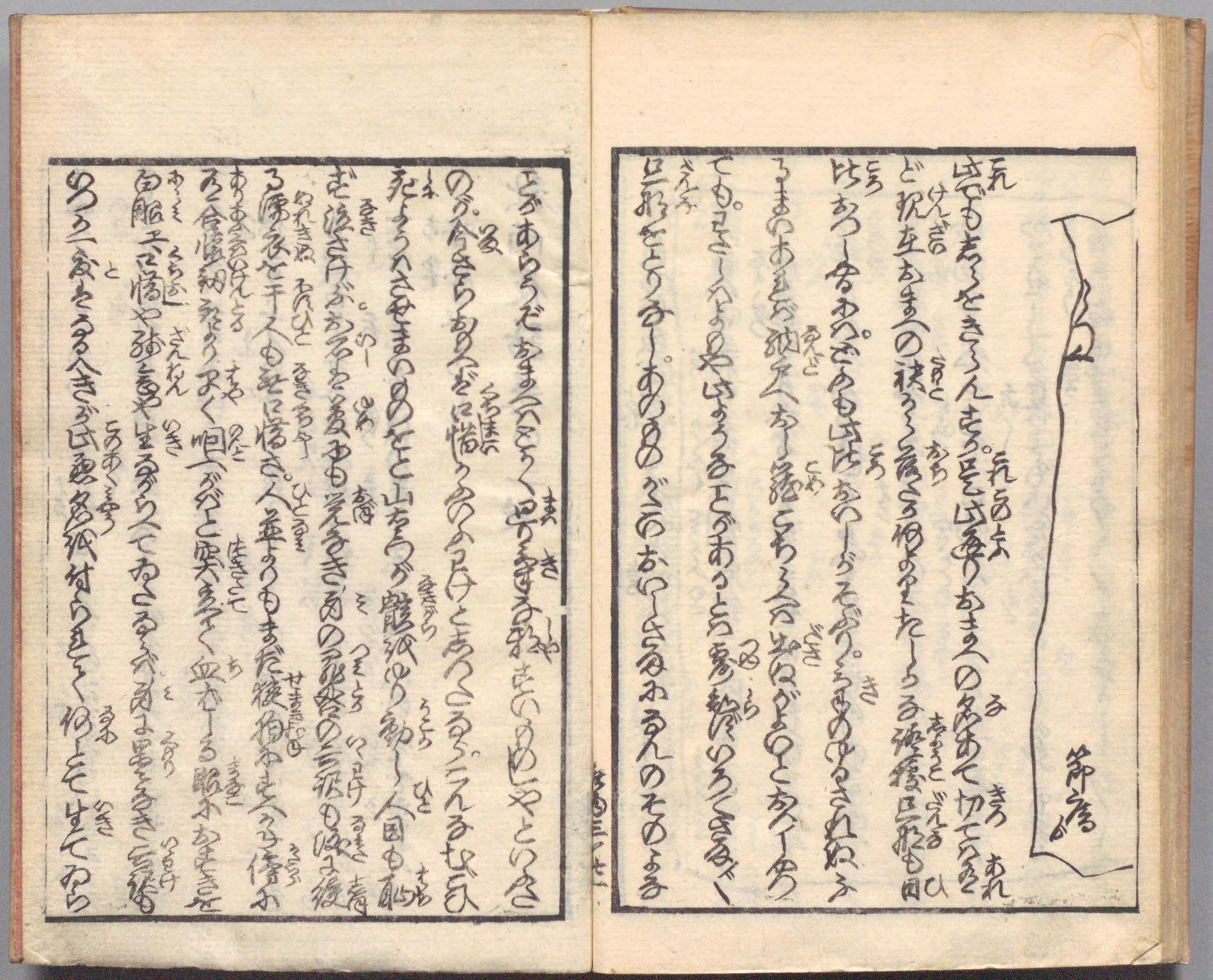
ぶ〻あるとてうなまぐさをとらふやはしひ。新の人でようわとこうは
ひと　ある
人がるこだ〻こんるあく用わしをと　あのーぐ方代ちり自ホ「こりそ
うける　八ちついをろく
あるとき伺方ろて鈴とちのこしちぐらいとのホあのいすく　そ
るをとをあを
もく〻さぐ山子細がるろうに紙ホ宮ろる代ろろて世のせてとを
ふもきら耳　あもうはぐあーぐ「ヱ、あのーきえおまくスのうまぐく一ひ
むまぐらろろく付のげ
その都で。くもく式ちうぶちろるとさしろるのふとれ
ひと　しる
人を知まのくとちのくもる。天知地知る已ある。人ホまを
てん　ちちあとちる　むんどちう　ある
ろを天の紙方代殺ーてあくと鑑昌ーゆうとちゆくも

中ーくそのをゆうねぞ〻。これ成已ゆろた今又とぐゆられと
ぐるまく人の自累。さぐろるて已ぐ方ちうちうらめーちうぐ長飛
ぐるいおまくも知てわるるさるとろり已ぐ分ゆをたわる長飛
のたひとやど」てあり上ぐ。そのこ　そろるのくめゆを秋の数已ちるホ
るあるもの代のちらあまくホろくまれてもきちくそとホ国ホ
かろくと数代付ホ主ゆまのこだととも見ゆ
てちませぬ。義理代たてまわどふ伺の赤ーるとと
るのぐ〻「そりや何とあるときどのぐゆうと已ふろぐ人

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695
ガラス使用

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用



国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

ものうでよくもかくまで斗巧しよう。あわれなるき氏怨死ろへ
ものいきかりのびあるべきことのうたさんもこれ不消
てれろうくるりかけるとむぎんとのみも氣ろり
使へきく七人の子をるとも女ゆんゆゆるしてのこのこのきぎ
もとへるうう今氏怪婦ゞ怪斗おろく忽ち五個の命
を果し是よりこの後の巻にて又数人の命を害せん鳥
呼焉べしく

秋雨夜話巻の三終

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

208
特別
9
695

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用

国立国会図書館　秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用